

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

簿記・情報・観光等の科目を学ぶ商業学科の特性を活かして地域のニーズや社会の要請に応える教育活動を展開し、地域や社会を支える人材を育成する。

1. 多様な学びを通して能力・適性を伸ばし、自らの将来を展望し、目標達成に向かう自己実現力を育む。
2. 急速に変化する社会の中でも、広い視野を持ち、社会での役割を自ら見出すことができる人材を育成する。
3. 本校で身につけた知識や経験をもとに、様々な困難に立ち向かい、他者を理解し、協働できる寛容な心を育む。
4. 市民や地域の期待に応え、生徒が楽しく、意欲的に学べる環境や取組みの充実した学校をめざす。

### 2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業、学力が定着する授業、進路に結果をだす授業」をめざした取組みを進める。

ア 基礎基本の充実をはかり「わかりやすい授業をめざすとともに、商業学科の特性を活かした授業展開をもとに、従来の授業実践とICT機器を活用した授業を融合し、教員同士の能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。

イ 授業を通して「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、公開授業や校内研究協議を活性化することで授業力の向上を図る。

ウ 授業アンケート等の結果を踏まえながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善を図る。

※学校教育自己診断（教員）における「コンピュータ等のICT機器が授業などで活用されている」の肯定率を、R7年度には80%以上をめざし、毎年3%ずつ引き上げる。(R4 73%)

※学校教育自己診断（生徒）における「授業は、わかりやすく楽しい」の肯定率を、R7年度には80%以上をめざし、毎年3%ずつ引き上げる。(R4 73%)

※基礎学力の定着をめざし、全商簿記検定・全商情報処理検定における3級の取得者を令和5年度1年次での取得者割合を70%とし毎年向上させる。(R4 66%)

2 商業教育、観光教育、キャリア教育、道徳心・社会性の育成の推進

(1) 商業教育、観光教育、キャリア教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かし、協働し生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。

ア 「ライフプランニング」、「課題研究」、「志学」LHR等を活用して、3年間を見通した商業教育、キャリア教育等を行う。

イ 資格の取得と技術の習得を勧め、社会人基礎力を身につけさせる。

ウ 生徒自らが、挨拶、礼儀、身だしなみ等、規範意識を高める態度を日々の教育活動の中で育む。

エ 生徒自らが、時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的な生活習慣を確立させる。

オ 生徒の多様な興味・関心に応じた教育活動を展開し、自ら目標を設定して取り組むことができる主体的な態度を育む。

※進路未決定者を毎年減少させ、進路未決定者ゼロを目標とする。(決定者 R2 95.0% R3 95.2% R4 93.3%)

※遅刻件数を一人平均前年度実績未滿をめざし、毎年減少させる。(R2 4.1件 R3 4.0件 R4 4.3件)

※転退学件数を35件未滿をめざし、毎年減少させる。(R2 45件 R3 39件 R4 51件)

3 地域や社会の期待に応え、生徒が楽しく意欲的に学ぶ魅力ある学校の構築

(1) 子どもが安心して成長できる安全な社会・学校の実現

ア 生徒が学校中心の生活を送れるような明るく楽しい学校づくりの推進

イ 生徒が健全な学校生活を送るための保健管理と環境美化

ウ 人権教育の推進と一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援教育の充実

エ 関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材活用による中途退学・不登校の未然防止

(2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。

ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。

イ 学校ホームページ、体験授業等を活用し、学校情報発信を積極的に行う。

ウ 商業科の各コースにおいて、地域や企業等と連携した取組みを計画・実践する。

(3) 教職員の働き方改革に関する取組みを行う。

ア 委員会の整理・統合をおこない教職員の負担軽減を図る。

イ 教員同士の能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。またICT機器を活用することにより、教材研究の時間の軽減を図る。

※学校教育自己診断（生徒）における「学校へ行くのが楽しい」の肯定率を、R7年度に74%以上をめざし毎年2%引き上げる。(R4 68%)

※学校教育自己診断（生徒）における「悩みや相談に親身なって応じてくれる先生がいる」の肯定率を、R7年度に80%以上をめざし毎年2%引き上げる。(R4 74%)

※学校ホームページの更新回数200回をめざし、毎年維持する。(R2 97回 R3 140回 R4 175回)

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和5年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒回答】</p> <p>高評価（85%以上）</p> <p>6 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。(87.7%)</p> <p>7 文化祭（体育祭、修学旅行）は楽しく行えるよう工夫されている。(91.3%)</p> <p>8 学校は生徒1人1台端末を効果的に活用している。(87.5%)</p> <p>低評価（60%未滿）</p> <p>なし</p> <p>【教職員回答】</p> <p>高評価（85%以上）</p> <p>4 生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。(85.7%)</p>	<p>【第1回】（令和5年5月29日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・転学者数について、昨年より減らすことができるよう取り組んでほしい。</li> <li>・生きる力を育み、自ら考え行動できる生徒を育成してほしい。</li> <li>・学校での生徒の動きや様子がもっと見えるようにHPやSNSを利用して情報発信してほしい。</li> </ul> <p>【第2回】（令和5年11月28日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を抱えている生徒が多く在籍していると思われるが、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導を期待する。</li> <li>・電子黒板が導入されたとのことなので、より一層ICTを活用し</li> </ul>

<p>7 学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。(96.4%)</p> <p>8 教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。(85.7%)</p> <p>9 コンピュータ等のICT 機器が授業などで活用されている。(96.4%)</p> <p>11 学校内で他の教員の授業を見学する機会を積極的に持っている。(92.9%)</p> <p>低評価 (60%未満)</p> <p>10 教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。(50.0%)</p> <p>12 各種会議が教職員間の意思の疎通や意見交換の場として有効に機能している。(46.4%)</p> <p>14 この学校では清掃がいきとどいている。(35.7%)</p> <p>【保護者回答】</p> <p>高評価 (85%以上)</p> <p>4 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。(87.1%)</p> <p>6 学校は、子どもに生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。(85.2%)</p> <p>低評価 (60%未満)</p> <p>2 子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。(53.9%)</p> <p>本校では、高評価 (肯定的回答 85%以上)・低評価 (肯定的回答 60%未満) を基準とするとともに、前年度比を加味して分析を行った。</p> <p>生徒回答では、全 13 項目のうち 8 項目において肯定的な回答が前年度を上回ったが、「授業はわかりやすく楽しい」「先生の指導には納得できる」の 2 項目で昨年度より 6 ポイント程度下回った。次年度に向けて改善すべきポイントである。</p> <p>教職員回答では、教職員間での意思疎通や授業方法の検討などにおいて低評価であり、昨年度よりも低下していることから、学校組織として取り組んでいく必要がある。</p> <p>保護者回答では、おおむね生徒回答と同じ傾向であり、「授業がわかりやすい」「生徒指導の方針に共感できる」において、ともに昨年度から 6 ポイント程度低下しており、生徒・保護者のニーズに応じた指導のあり方を検討していく必要がある。</p>	<p>た効果的な教育活動が実践されることを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業やセルフマネジメントデイ等の機会を通じて、金銭教育などを含めた生徒の自己管理意識の向上に努めてほしい。</li> <li>商業高校の役割として、社会人としての基礎基本を身につけることができるよう、より実社会に近い形で教育実践を進めてほしい。</li> </ul> <p>【第 3 回】(令和 6 年 1 月 25 日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断の評価について、昨年より肯定的意見が増えている部分が多いことは評価できる。肯定的とした具体的な意見が詳細にわかれば他の否定的な部分も減ると感じる。</li> <li>学校教育自己診断の質問項目をブラッシュアップして評価が明確になるように工夫することで、今後の改善につなげてほしい。</li> <li>教員 1 人 1 人の業務が増えているように感じる。ICT などをもっとうまく利用し少しでも業務負担を軽減できるようにしてほしい。</li> <li>学校の情報発信に SNS をうまく活用していると感じる。中学生に情報が届くようこれからも工夫してほしい。</li> <li>昨年度よりも退学生徒を減らすことができるよう継続して力を入れてほしい。</li> <li>高校でもインクルーシブ教育が必要になっていると感じる。教員間での連携など大変な部分も多いと思うが、生徒の状況に応じた支援ができるよう今後の取組みが充実することを期待している。</li> </ul>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 「わかる授業、学力が定着する授業、進路に結果をだす授業」をめざした取組みを進める。			
	ア 商業学科の特性を活かした授業展開のもとに、従来の授業実践と ICT 機器を活用した授業を融合し、教員同士の能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。	ア・個々の生徒を尊重し、褒めて伸ばす教育を学校全体に浸透させるために、教職員全員で取り組み、意欲的かつ積極的に学校生活に取り組む生徒を増やすべく活気ある学校づくりを進める。 ・教員が教材研究・授業等に ICT 機器をより一層活用できるように工夫する。 ・授業アンケート等の結果を踏まえ、教材の精選・授業展開等の工夫を行う。 ・リーディング GIGA ハイスクールモデル校として、他校の教員を招き、ICT を活用した公開授業を行う。	ア・学校教育自己診断 (生徒) の「授業は、わかりやすく楽しい」を 76%。[73%] ・学校教育自己診断 (教職員) の「教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」を 75%以上。[75%] ・学校教育自己診断 (教職員) 「コンピュータ等の ICT 機器が授業などで活用されている」76%。[73%] ・学校教育自己診断 (生徒) の「教え方に工夫をしている先生が多い」80%以上。[80%] ・ICT を活用した公開授業を 3 回以上実施。[新規]	ア・「授業は、わかりやすく楽しい」66%[73%]。教員が連携しながら全体として授業改善を図っていく必要がある。(△) ・「授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」50%[75%]。先の項目の結果にもつながっている。(△) ・「ICT 機器が授業などで活用されている」96%[76%]電子黒板が各教室に設置され活用が促進された。(◎) ・「教え方に工夫をしている」80%[80%]ICT を活用した授業が多く見られる。(○) ・ICT を活用した公開授業を 2 学期に 4 回実施。(○)
	イ 授業等を通して「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、公開授業や校内研究協議を活性化することで、授業力の向上を図る	イ・校内授業見学を実施し各教員は年度内に 3 回以上見学する。 ・HR・講演会・各種説明会等を通じて、多様化する教育課題を生徒・保護者にも情報提供し、理解を深める。 ・会議・各種委員会を精選し教員力・授業力の向上をめざす。	イ・学校教育自己診断 (教職員) 「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」86%以上。[86%] ・学校教育自己診断 (教職員) 「各種会議が教職員間の意思の疎通や意見交換の場として有効に機能している」70%以上。[67%]	イ・「他の教員の授業を見学する機会がある」93%[86%]。公開授業週間(2 週間程度)を 3 回実施(○) ・「各種会議が教職員間の意思の疎通や意見交換の場として機能している」46%[67%]。意思疎通を図る機会や風土を構築する必要がある。(△)
ウ 授業アンケート等の結果を踏まえながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善を図る。	ウ・教科ごとの研究授業を実施する。 ・実践事例を研究し、ICT を効果的に取り入れながらファシリテート力の向上をめざす。	ウ・教科ごとの研究授業を年度内に各教科 1 回以上実施する。 ・学校教育自己診断 (生徒) の「自分の考えをまとめ発表することができる」を 80% [78%]	ウ・研究授業をほとんどの教科で 1 回以上実施(○) ・「自分の考えをまとめ発表することができる」82%[78%]。様々な科目で発表の機会を設けている(○)	

<p>2 商業教育、観光教育、キャリア教育、道徳心・社会性の育成の推進</p>	<p>(1) 商業教育、観光教育・キャリア教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かし、協働し生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。</p> <p>ア 「ライフプランニング」、「課題研究」、「志学」LHR 等を活用して、3年間を見通した商業教育、キャリア教育等を行う。またコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力等のビジネススキルの育成を図り、社会人基礎力を身につけさせる</p> <p>イ 進路指導部と学年が連携し、キャリア教育、進路相談を充実させる。</p> <p>ウ 生徒自らが、時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的生活習慣を確立させる。</p> <p>エ 生徒の多様な興味・関心に応じた教育活動を展開し、自ら目標を設定して取り組むことができる主体的な態度を育む。</p>	<p>ア・「ライフプランニング」・「課題研究」を中心に体験型学習を取り入れ、3年間を通じたキャリア教育の充実を図るとともに、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の育成を図る。</p> <p>イ・1年次から「ライフプランニング」を中心としたキャリア教育の充実を図り、進路意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を持って取り組める生徒を育成し、今後3年間で、卒業時の進路未決定者ゼロをめざす。</p> <p>ウ・基本的生活習慣を確立し、特に時間を守る習慣を身につける。また、集団生活におけるルールを守る大切さを理解させ、文化祭・体育祭等の行事や講演会・講習会等を通じて継続的に指導を行う。</p> <p>エ・外部機関と連携した取り組みを推進し、未知の分野に関する経験を重ねることで学習意欲の喚起を図る。 ・自ら判断して行動する機会を設けることで、生徒の主体性を養う。</p>	<p>ア・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」を82%以上。[82%] ・学校教育自己診断(生徒)「進路についての情報をよく知らせてくれる」を75%以上。[73%] ・学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめ発表することがある」を80%[78%](再掲)</p> <p>イ・進路決定者を95%以上とする。[93.3%]</p> <p>ウ・今年度の一人当たりの平均遅刻件を前年度未満とする。[4.3件] ・今年度の転退学件数を35件未満とする。[51件]</p> <p>エ・地域・企業と連携した取り組みを昨年度から継続し新規の取り組みも開拓する。[17事業] ・セルフマネジメント日を10日以上実施する。[新規]</p>	<p>ア・「将来の進路や生き方について考える機会がある」84%[82%]。ライフプランニングを中心に実施できた(O) ・「進路についての情報をよく知らせてくれる」83%[73%]。進路指導部をはじめ担任等から情報提供している(O) ・「自分の考えをまとめ発表することがある」を82%[78%](再掲)ライフプランニングや各科目での取組みが多くみられた(O)</p> <p>イ・進路決定者92.3%[93.3%](Δ)キャリア教育の視点であらゆる機会に指導する必要がある。</p> <p>ウ・一人当たりの平均遅刻件5.3件[4.3件]欠席とともに増加傾向にある(Δ) ・転退学件数56件[51件]。増加傾向にある(Δ)</p> <p>エ・地域・企業と連携した取り組みを昨年度から継続し新規の取り組みも開拓。42事業[17事業](O) ・セルフマネジメント日を11日実施。[新規](O)</p>
<p>3 地域や社会の期待に応え、生徒が楽しく意欲的に学ぶ魅力ある学校の構築</p>	<p>(1) 子どもが安心して成長できる安全な社会・学校の実現</p> <p>ア 生徒が学校中心の生活を送れるような明るく楽しい学校づくりの推進</p> <p>イ 生徒が健全な学校生活を送るための保健管理と環境美化</p> <p>ウ 人権教育と支援教育の充実</p> <p>エ 関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材活用による中途退学・不登校の未然防止</p>	<p>ア・生徒自らが運営する文化祭・体育祭をとおして、すべての生徒が参加できるように工夫をする。リーダーを育成し全員で協力することの大切さや、生徒一人ひとりが楽しいと感じる学校作りのために何事に対しても率先して取り組める環境づくりを推進する。</p> <p>イ・保健委員を中心に保健活動の活性化を図る環境美化を中心に「保健だより」を定期的に発行する。</p> <p>ウ・教職員対象の講習会や生徒対象の講演会を開催し、教職員や生徒の人権意識向上を図る。 ・インクルーシブ教育を充実させるための組織的な取組みを推進し、それに伴う特別支援コーディネーターの資質向上を図る。</p> <p>エ・SCやSSW等の専門人材と連携し、中退防止に向けて相談体制を強化する。 ・生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるよう、ケース会議・いじめ防止対策委員会・特別支援教育委員会等の会議を定期的で開催することにより、情報共有をおこない、教員がカウンセリングマインドをもって生徒に接することを心掛ける。</p>	<p>ア・学校教育自己診断(生徒)「体育祭・文化祭が楽しく行えるよう工夫されている」90%以上を維持する。[92%] ・学校教育自己診断(生徒)における「学校へ行くのが楽しい」70%以上[68%]</p> <p>イ・学校教育自己診断(教職員)「この学校では、清掃がいきとどいている」60%以上[54%]</p> <p>ウ・人権に関する講演会・講演会を年4回以上開催する。(昨年度4回) ・インクルーシブ教育に係る研修会を年2回以上実施する。[2回]</p> <p>エ・今年度中途退学者を15人未満にする。[25人] ・学校教育自己診断(生徒)における「悩みや相談に親身なって応じてくれる先生がいる」75%[74%]</p>	<p>ア・「体育祭・文化祭が楽しく行えるよう工夫されている」91%[92%]。生徒の満足度は継続して高い。(O) ・「学校へ行くのが楽しい」66%[68%]。魅力を一層推進する必要がある(Δ)</p> <p>イ・「この学校では、清掃がいきとどいている」36%[54%]。校務員不在によるところが大きい。(Δ)</p> <p>ウ・人権に関する講演会・講演会を年7回開催。[4回]人権意識の醸成が図られた(◎) ・SCを講師としてインクルーシブ教育に係る研修会を1回実施[2回]。年間計画に入れ込むことで実施していきたい(Δ)</p> <p>エ・今年度中途退学者23人[25人]増加傾向にあり、指導体制を見直す必要がある(Δ) ・「悩みや相談に親身なって応じてくれる先生がいる」70%[74%]副担任や教育相談の充実を図る必要がある(Δ)</p>

<p>3 地域や社会の期待に応え、生徒が楽しく意欲的に学ぶ魅力ある学校の構築</p>	<p>(2) 地域や企業との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。</p> <p>ア 学校ホームページ、体験授業等を活用し、学校情報発信を積極的に行う。</p> <p>イ 観光コースにおいて、地域・企業と連携した取り組みを計画する。</p> <p>(3) 働き方改革に関する取り組みを行う。</p> <p>ア 業務内容を精査して職員会議等を効率化し、教職員の負担軽減を図る。</p>	<p>ア・学校 HP を充実し、日頃の教育実践を教職員と生徒が積極的かつ効果的に PR する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>魅力ある学校のアピールに努め、中学校への広報活動を充実させる。</li> <li>中学生対象の各種説明会や体験講座の内容を精選し、魅力ある学校づくりをアピールし、広報活動の充実を図る。</li> </ul> <p>イ・観光コースの取組みとして、関係企業と連携し、観光プランの策定に向けた講習会やフィールドワークを実施し、実践的な知識と技術を習得する。</p> <p>ア・会議資料をデータで共有してペーパーレス化を推進するとともに会議の効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フォーム作成ツールを利用し、欠席連絡対応の効率化を図る。</li> </ul>	<p>ア・学校 HP の更新回数 200 回をめざす。[175 回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員の中学校訪問回数合計 200 回以上を維持する。[233 回]</li> <li>体験会・説明会の実施を 5 回以上とし、参加生徒等延べ 300 人以上を維持する。[5 回 359 人]</li> </ul> <p>イ・観光プランを 3 件以上策定する。(新規)</p> <p>ア・1 学期中に移行を図り、2 学期に完全実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 学期中に欠席連絡対応ツールを作成し、2 学期まで稼働させる。</li> </ul>	<p>ア・学校 HP の更新回数 120 回 [175 回]。今後も定期的に更新をしていく(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員の中学校訪問回数合計 247 回[233 回]全教員で協力して実践できた(○)</li> <li>体験会・説明会を 5 回実施。参加生徒等延べ 381 人[5 回 359 人]。効果的に周知が図られた(○)</li> </ul> <p>イ・観光プランを 5 件策定した。策定に向けて地域や外部との数多くの連携により、生徒の主体的な学びが実践できた。(◎)</p> <p>ア・2 学期に完全実施し、徐々に慣れてきている。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>欠席連絡対応ツールは次年度から稼働させる(△)</li> </ul>
--	---	--	--	--